

【学力向上フロンティアスクール中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福光町立福光東部小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	73	69	76	69	65	73	1	426	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ喜びを感じ、生き生きと学習する子供の育成
 ~基礎・基本を身につける学習指導の工夫~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 2年から6年 算数
 算数は、系統性が明確であり、積み重ねが大切な教科である。学年が上に進むほど、習熟度に差が出てくる。また、できる・できないを子ども自身が自覚できる教科であるため、好き・嫌いがはっきりしてくる。個人差が大きいこの教科で行うのが適切であると考えた。
- ・ 4年 理科
 算数だけでなく少人数指導による学力向上の取り組みを他教科へも広げる手がかかりとして一部の学年で行う。

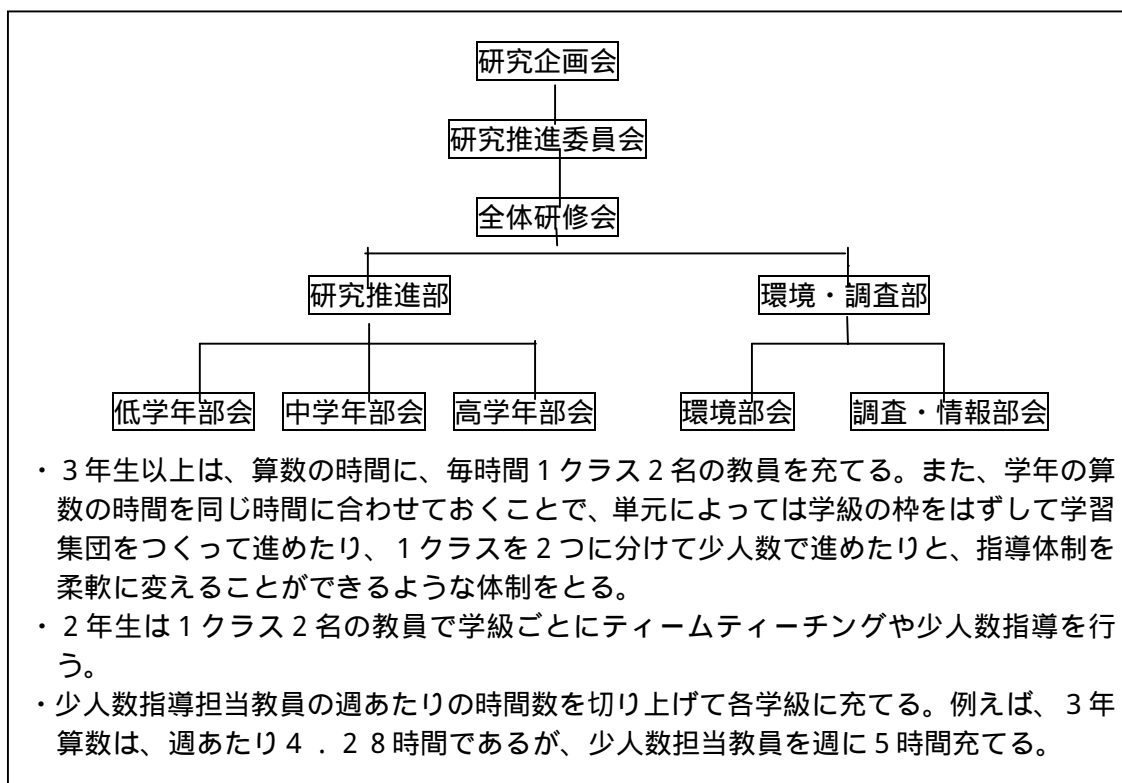
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学ぶ喜びを感じ、生き生きと学習する子供の育成 ~基礎・基本を身につける学習指導の工夫~</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>仮説1 学習内容の系統性や子供の学びの筋道を考え、基礎・基本を大切に にした単元構成を工夫すれば、見通しをもって学習に取り組む。</p> <p>仮説2 子供の実態をとらえ、興味・関心・課題に応じてチームティー チングや少人数指導による指導方法や指導体制を工夫すれば、分か る喜びをもって学習に取り組む。</p> <p>仮説3 自己評価や相互評価を取り入れ、自分の学びの進歩が感じ取れる 評価方法を工夫すれば、子供たちは意欲的に学習に取り組む。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p><u>基礎・基本が身につく単元構成の工夫</u></p> <p>ア 単元及び小単元ごとの基礎・基本を明確にした目標設定</p> <p>イ 子供の意識の流れに沿った教材と学習展開</p> <p><u>成就感・達成感のもてる指導方法や指導体制の工夫</u></p> <p>ア 個に応じた指導のための指導方法・指導体制</p> <p>イ 体験や操作活動など体を通して学ぶ学習過程の設定</p>
--------	--

	<p><u>学ぶ意欲を高める評価方法の工夫</u></p> <p>ア 進歩の状況をとらえることのできる評価</p> <p>イ 4観点から見た総合的な評価</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>学ぶ喜びを感じ、生き生きと学習する子供の育成 ～基礎・基本を身につける学習指導の工夫～</p> <p>研究の見通し</p> <p>仮説1 学習内容の系統性や子供の学びの筋道を考え、基礎・基本を大切にした単元構成を工夫すれば、見通しをもって学習に取り組む。</p> <p>仮説2 子供の実態をとらえ、興味・関心・課題に応じてチームティーチングや少人数指導などによる指導方法や指導体制を工夫すれば、分かる喜びをもって学習に取り組む。</p> <p>仮説3 自己評価や相互評価を取り入れ、自分の学びの進歩が感じ取れる評価方法を工夫すれば、子供たちは意欲的に学習に取り組む。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p><u>基礎・基本が身につく単元構成の工夫</u></p> <p><u>成就感・達成感のもてる指導方法や指導体制の工夫</u></p> <p><u>学ぶ意欲を高める評価方法の工夫</u></p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

- ・作業的・体験的な算数的活動を多く取り入れた単元構成を工夫することで、子供たちは興味をもって意欲的に学習に取り組んだ。高学年においても、作業的な算数的活動は、課題意識を高めたり自分の考えを深めたりするうえで効果的であった。
- ・学年・学級一斉、学年・学級少人数指導（習熟度、学習速度、課題別など）などの指導体制を児童の実態やねらいに応じて柔軟に工夫することで、子供たちは自分に合ったコースで学習を進め、理解を深めた。コース選択に際しては、保護者と相談しながら自分でコースを選んだことが、学習意欲につながった。また、その意欲が理解へとつながり、理解が大きな自信となった。
- ・自己評価カードを工夫し、自己評価を行うことで子供たちは目当てをもって学習を進めることができた。また、いくつかの観点で自己評価を行うことで、答えが合っていたというような見方ではなく、考える過程を大切にすることが増えてきた。

2 今後の課題

- ・個に応じた効果的な指導方法についての研究を深める。
- ・自己評価や相互評価、診断的評価を積極的に取り入れた学習過程を工夫する。
- ・児童の変容を数量的とらえるなど、客観的な評価に努める。

学力を把握する取り組み

- ・本年度より毎年4月にNRT（集団基準準拠検査）を実施する。
- ・算数に対する興味や関心を知るためにアンケートを実施する。（4月、12月、1月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会及び講演会の開催

<日時> 平成15年11月7日（金）

<場所> 福光東部小学校

<公開授業> 3年 かけ算のしかたを考えよう（2C4Tによる少人数指導）

<講演会> 国立教育政策研究所 高浦勝義先生

「今求められる学力とその指導」

<目的> 本校保護者に本校の取り組みを知らせる。

本校の取り組みについてのパンフレットを作成し、保護者に配布する。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下	7～12学級
	13～18学級	19～24学級
	25学級以上	
【指導体制】	少人数指導	TTによる指導
	一部教科担任制	その他
【研究教科】	国語 社会	算数 理科
	生活 音楽	図画工作 家庭
	体育 その他	
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無